

## 「NISAについて(後編)」

岩瀬 直行 陸自88

前回、新NISAの「非課税期間の無制限化」と「口座開設期間の恒久化」について触れ、特に若者にとって非課税枠の期間が撤廃されたことと、この制度が未来永劫続くことは、大きなメリットであることをお伝えしました。

今回は新NISAの他の特徴、つまり「つみたて投資枠と成長投資枠の併用」、「年間投資枠の拡大」、そして「非課税保有限度額の拡大」について詳しく説明します。

新NISAでは、以前は選択制だったつみたてNISAと一般NISAが、つみたて投資枠と成長投資枠として統合され、それらの併用が可能になりました。現在の制度では、つみたて投資NISAは年間の投資上限が40万円と低いものの、非課税期間が20年と長い。一方、一般NISAは年間の投資上限が120万円と高いものの、非課税期間が短い5年という制限があります。これら

の制限が投資家にとっては選択の難しさとなってしまいました。しかし、新制度ではこれらを組み合わせることができ、これは大きな進歩です。

また、各年間投資枠がつみたて投資枠は40万円から120万円へ、成長投資枠は120万円から240万円へと大きく拡大し、合計で最大360万円まで投資が可能となりました。これは本家のイギリスのISA (Individual Savings Account: 個人貯蓄口座) が日本円にしておよそ300万円程度であることを考慮すると、かなりの額といえます。

さらに、非課税保有限度額です。現行の制度では、つみたてNISAの上限は800万円、一般NISAの上限は600万円ですが、新制度ではこれが合計1800万円にまで拡大します。注目すべき点は、投資商品を売却すれば非課税枠が復活するということです。例えば、つみたて投資枠で300万円を投資した場合、非課税枠は残り1500万円ですが、その後100万円分を売却すれば、その分の非課税枠が復活し、非課税枠は1600万円に増えます。つまり、適切に活用すれば、全てをつみたて投資枠だけで運用する

ことも可能ということですが。

これらの新NISAの改善点を総合すると、以前に予想もしていなかったほどの素晴らしい内容になっています。評価するならば、100点満点中150点と言っても過言ではないでしょう。

ここで、新NISAを活用した具体的な運用例として、退職したばかりの自衛官の退職金の運用について紹介します。57歳で退職し、退職金の1000万円を新NISAで運用し、公的年金を受け取れる65歳までの8年間で資産形成を行うとしましょう。

まず、基本はつみたて投資です。ドルコスト平均法で着実に資産を増やします。そのためには、65歳までの約100カ月間、毎月10万円を投資します。そして、株価が下がるタイミングで、成長投資枠内で株や投資信託を買い足し、短期・中期で保有し、利益が出たら売却します。これにより、つみたて投資だけで1000万円を投資しつつ、成長投資枠の利益もしっかり得ることが可能です。

これまでは多くの退職自衛官が、よく理解していないまま、金融業者

に言われるがまま、大きな投資を行ってしまい、資産を増やすどころか、減少させてしまうことが多かったのではないのでしょうか。特に昨年などは米国をはじめとする大暴落が3回もありましたので、それが顕著でした。新NISAの出現により、非課税枠をふんだんに使い、長期的に投資し、安全に資産を増やすことが可能となると思います。退職金の運用の仕方に变革をもたらすといっても過言ではないと思われます。

今年は昨年と違い、米国株も日本株もとても活況です。ここで一つ、注意が必要なのは、これに食い付かないことです。「上がってきたので一挙に買いましょう!」このような甘い誘いは要注意です。目先のことにとらわれず、長期的な視点でコツコツとやっていくべきです。

さて、新NISAについて説明いたしました。よく「つみたて投資」とiDeCoの違いについて聞かれます。この二つは「似て非なるもの」で、一見似ているようですが、まったく違うものです。今回はiDeCoの概要とつみたて投資との違いについて、説明したいと思います。